

北九州市保健環境研究所「健康危機対処計画」(最終案)について

1 素案(R5.12.8 常任委員会報告)からの変更点

県内の保健環境研究所や国立試験研究機関等との連携強化など、以下の3点について素案からの変更を行った。

(1) 有時における保健環境研究所の指揮命令系統及び役割分担の明確化

感染症危機発生時において速やかに検査体制を構築し、円滑にPCR等検査を実施できるよう所内の指揮命令系統及び役割分担を明確に定めた(4~5ページ)。

(2) 福岡県保健環境研究所及び福岡市保健環境研究所との連携

地域における感染症危機対応の体制を構築するため、福岡県保健環境研究所及び福岡市保健環境研究所と協議し、以下の連携について確認した(5~6ページ)。

平時における連携事項

- (ア) 人材育成…合同実践型訓練、合同研修及び合同研究発表会の実施並びに共同研究
- (イ) 情報共有…実施可能な検査項目、検査実施件数の共有
検査機器の整備状況及び試薬等の備蓄状況の共有

有事における連携事項

- (ア) 検査協力…相互検査依頼及び検体の受入れ、試薬等の備蓄状況の共有
- (イ) 情報共有…ゲノム解析結果の共有(変異株の発生動向、広域クラスター解析)
- (ウ) 情報発信…ゲノム解析結果の発信(変異株の発生動向、広域クラスター解析)

(3) 国立感染症研究所等の国立試験研究機関等との連携

国立感染症研究所等の国立試験研究機関等が実施する検査担当者向け研修を活用した人材育成の実施や外部精度管理を活用することで検査の質の向上に努めるとともに、国立試験研究機関等との共同研究に参加(データ収集・検体の提供)し、国内の感染症サーベイランスに寄与することを明記した(6~7ページ)。

研修 令和5年度実績(抜粋)

- ・薬剤耐性菌の検査に関する研修(国立感染症研究所)
- ・検査能力向上講習会(国立感染症研究所)
- ・希少感染症診断技術研修会(国立感染症研究所)

共同研究 令和5年度実績(抜粋)

- ・CRE感染症の臨床学的疫学的解析(感染研薬剤耐性研究センター)
- ・国内流行ムンプスウイルスの分子疫学に関する研究(感染研ウイルス第三部)

2 今後のスケジュール

- ・年度内に策定し、4月から運用開始。(ホームページで公表)